

ほくは「タイちゃん」らしい。ポロシャツのボタンは、一番上まで全部とめることにしている。

「タイちゃん、おはよう&※※↓〇☆☆☆」

先生の言うことはよくわからない。ほくにとって言葉は音でしかない。

顔の前で何度も言うから、しかたなく目を合わせないようにして同じことを言った。

「おはよう」

すると先生は、ほくの前からいなくなった。人の目ってこわい。つきさされるようだ。

歩きながら、ほくはピョンピョンとびはね、クルクルとまわる。こうすると何だか落ちつく。

教室に行くときスケジュールを見る。一番上の「カバン」というカードをはがしてロッカーに行き、「おしまい」と書かれた箱に入れる。ロッカーにカ

バンを入れると、次の「きがえ」というカードをはがす。着替えの場所に行くとカーテンを閉め、シャツとズボンを脱いできれいにたたんでカゴに入れた。することやおわりがわかると安心できる。

つぎのカードは「おちゃくみ」だ。ペットボトルをもって湯わかし場まで歩くとお茶が冷やしてある。コックをひねってボトルがいっぱいになるまでお茶を入れるのがほくの仕事だ。湯わかし場につくと、いつもは閉まっているはずの窓が開いているので、閉めた。いつもとちがうのは気持ちが悪い。お茶を入れようとしたら、何か言われた。

「タイちゃん、*☆☆※↓〇☆全&=じゅんばんメ#※※」

「じゅんばん」と言うところだけわかった。みんなが並んでいるときには、列の最後に並ぶなんてわからない。指さされた場所に行って待つと、やがてほくの番になったのでお茶を入れた。これが、「じゅんばん」ということなんだろうか？

教室に戻ると、ペットボトルをカゴの中においてスケジュールを見る。これから、ほくの好きな時間だ。「しんぶん」というカードをはがして先生